

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが常に理念を意識し、ご利用者が生き生きと生活出来るようなサービスを提供している。玄関、事務所、職員トイレ等に理念を掲示し常に目に入る様になっている。	開設時にホーム独自の理念を作成し、玄関や職員用トイレ、事務室など事業所内の目に付く所に掲示をする他、忘年会時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材等の買い物はご利用者様と地元のスーパーを利用したり、米、味噌、牛乳は地元の方から購入している。又、ボランティアの方から来所して頂いたり地域の方に蕎麦作りをして頂き交流を図っている。	地域の傾聴ボランティアの方に定期的に来て頂いたり、中学生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流を行っています。	ご利用者と一緒に町内行事も参加する機会を検討し、これまで以上に地域との交流が図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員出勤時、退勤時に地域の方にお会いした際、積極的に挨拶を交わしている。まだ、場面はないが、認知症に関して相談を受けた際、分かる範囲でご説明をして行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、地域住民の方、市町村職員、他施設の方等から参加して頂いている。現状報告し、意見やアドバイスを頂いている。意見等からより良いサービスを提供できる様日々努力している。	地域住民、市の担当者、他法人理事長、特別養護老人ホーム施設長、民生委員等に参加していただき、運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望をもとにサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市の担当者に運営推進会議の資料や会議録を提出したり、入居者の状況報告を担当者と連絡調整を行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております、事業所の状況の報告を行っているほか、地域ケア会議にも参加し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修として身体拘束に関する内部研修を行ったり、会議で身体拘束をしないケアについて話し合いを行っている。玄関の施錠は夜間のみとし、お一人おひとりが自由に行動出来るようにしている。	ホームとして身体拘束は行わない方針のもと、玄関の施錠についても夜間のみとしており、内部研修を行ったり、日頃の職員の言葉遣いについても管理者が指導を行う等、拘束しないケアが徹底されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して内部研修を行い全職員が理解し業務にあたっている。日々の業務内でも管理者、職員同士で注意や声を掛け合い虐待防止に努めている。	ホームでも虐待防止に関する研修の機会を設けたり、日常の中で声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、検討するようにされています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は実施していないが、今後成年後見人を利用されようと言う利用者様がおられる為内部研修や外部研修を行い、職員一人ひとりが権利擁護に関して学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、毎回時間を掛けご家族様に丁寧に分かりやすい説明を心がけている。不安や疑問点等あれば、その都度十分な説明を行い理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時に職員の方から積極的に声をお掛けし意見や要望をお聞きしている。また、2ヶ月に1度の運営推進会議への参加を促し意見や要望を確認している。また可能な限り意向に沿えるように努めている。	日々の面会時、2ヶ月に1度の運営推進会議、半年に1度のサービス担当者会議や年に1度の家族の集いなどの機会に、ご家族からの意見や要望を確認し、サービスの質の向上に繋げられるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議やユニット会議を行い職員間の意見交換を行なっている。管理者との個人面談の機会は設けられておらず、今後個人面談の機会を設けて行く。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるように努めています。	定期的に職員との個人面談の機会も設け、より率直な意見も収集できるようにされることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人が取得している資格等を給与に反映させ、個人に合わせた就業形態などやりがいのもてる環境作りに努めている。また正社員へ転換できる環境も整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や実績に基づき適切な研修に参加できるよう機会を確保している。施設内外の研修に参加させる事でスキルアップを図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流の機会は設けられていない。今後、職員の交換研修等を行いサービス向上に努めたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面談を行いご本人が今まで築いてきた生活を理解したうえで、要望、不安等をお聞きし全職員が共有している。ご本人と多く関わる時間を作り訴えや、表情、仕草から何を求めているか探り安心して生活して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に在宅での不安や困りごと、要望等をお聞きしている。面会時にも、その都度、ご家族の話しに耳を傾け共感し、良い関係作りに努めている。また、ご家族の話しやすい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接等を通じてグループホームへの入居が最適であるか見極める努力をしている。ご家族やケアマネジャーからお話を聞き、ご本人様の状態の把握をし、ご本人様への一番良いサービスをケアマネジャーと相談し提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの得意な事を見つけ活かし継続していけるよう支援をしている。日々の生活の中でその方が何を思い考えておられるのかを常に会話等から見極め信頼しあえる関係に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で日々のご様子をお伝えしている。面会の際にご本人の状態や様子を伝え、相談したり、受診時や緊急時には連携を取り、ご家族と職員で共にご利用者様を支えていく関係作りをしている。	事業所広報を年に4回作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、サービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで培ってきた人間関係や、社会との関係を把握し、馴染みの散髪屋、かかりつけ医等に行っている。またドライブ等でも慣れ親しんだ場所へお連れしている。友人、知人等の面会も気楽に来て頂いている。	親族、友人に面会に来て頂いたり、ご家族の協力を得て自宅への外泊やなじみの床屋も利用するなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格、利用者様同士の性格、その日の状態を把握し、職員が間に入った方が良いかを見極め対応している。他者との交流が難しい方には職員が共に過ごす時間を設け、安心感を持って頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では相談はされていないが、サービス終了後も、必要な場合には、ご本人およびご家族様の相談を受け支援を行なうよう努めて行く。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーションを大事にしており言葉だけでなく表情や仕草等から思いや意向をくみ取るように努めている。また生活記録に残す事で全職員で把握している。ご自分から思いを伝える事が困難な方には、ご家族から思いや意向を伺っている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートやカンファレンス、ご家族様との会話等から知り得た情報を全職員で共有し、生活記録に残し新しい情報の収集にも努めている。	暮らしの情報シートを活用し、契約時にご家族にも生まれてからの環境やよく行った場所等を記入してもらい、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。	日々のご利用者とのやりとりの中で確認した新たな情報についても定期的に更新するようにされることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず記録を読み、1日の過ごし方や心身状態や心身の変化の把握に努めている。また、状態に変化が見られた時は細かく記録に残し職員間で共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご様子を細かく記録に残しその方がより良い暮らしをするには何が必要か考えるようにしている。それを元にアセスメント、モニタリングを行いご家族様にも出席して頂きカンファレンスを行っている。ご家族の意向を踏まえご本人らしい生活を送れるような介護計画を作成している。	介護計画の実施状況を日々の生活記録にも記入するほか、居室担当者の毎月のモニタリングにより介護計画の達成状況を確認しています。また、半年に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、介護計画に関する意見や要望を伺うようにし、介護計画に反映させるようにしています。	調査時点で介護計画の日付に誤りがある箇所もありましたので、ミスのないように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やサービスの実施状況を生活記録に記入している。ご本人の言葉や職員の気づき今後の対応についての考えも記入し、月末のモニタリングの際に計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族様にお願いしているが、急変時やご家族様の都合がつかない時は、ホームで代行している。又、理美容やリネンに関しても、ご家族様が対応出来ない時はホームで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方や傾聴ボランティアの方々に定期的に来所して頂き、歌や踊り、傾聴ボランティアの方とお茶を飲みながらゆっくりお話しをして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診して頂いている。必要に応じてご本人の様子や相談事等を手紙でお伝えしたり、場合によっては職員も同行し様子を伝え、適切な指導を頂いている。	ご家族の受診支援を基本とし、ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医にて受診してもらい、必要時には事業所からもご利用者の状態を文書にまとめ、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、緊急で受診が必要な場合は職員が受診支援を行ったり、医師とのやりとりを直接行いたい時は職員が同行する等の支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週3回出勤しており、体調や状態の変化など様々な事を相談してその都度指示をおおいでいる。また、普段から利用者様の状態変化が見られればその都度生活記録に残し看護師に出勤時に報告している。夜間帯など看護師の指示を必要と感じた際、緊急連絡網で連絡できる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は管理者が出向き、ホームでの様子を伝え情報提供している。入院中も病院関係者と連絡を取り合い現状の把握に努め、医師、ご家族様と相談しながら早期退院に向け連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームでできるケアについて、また重度化しても医療行為がない状態であればそのままグループホームでの生活を継続して頂ける事を説明している。状態の変化見られた際は、その都度ご家族様や医師と相談しご家族の意向を踏まえて必要なサービスを受けられる様に努めている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し同意を得ており、家族の集いの場でも理事長からご家族に事業所の方針をお話しています。ご利用者の状態を見ながら必要時には話し合いの機会も設け、ホームとしてできる支援を行っています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による内部研修を行い、急変時や事故発生時の対応に備えている。また、AEDを設置してあり救急隊の方から使用方法と心肺蘇生の指導を受けている。しかし全職員が参加出来ておらず今後も継続していく必要があると思う。	事業所でも急変時マニュアルを用意し、救急法やAEDの使用研修、誤嚥時対応の研修なども行い、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回(日中、夜間、地震)の避難訓練を実施しており。その内2回は消防士立合いで実施している。防災のマニュアルや連絡網を作成しており、災害時の非常食も常備している。今は地域の方から参加して頂いていないが今後参加して頂けるようにしていきたい。	事業所では年に3回、日中・夜間の火災や地震を想定した避難訓練を行っており、災害時を想定した非常用の食品も確保されていましたが、前年同様地域の方の参加はありませんでした。	避難訓練には地域の方へも参加をお願いし、災害時に適切に避難できる体制を整えられることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の性格を理解し、ご利用者様の気持ちを第一に考え、その状況に合わせた言葉かけを行っている。プライバシーや尊厳を損ねないように言葉使いに配慮し、職員同士 互いに注意しあっている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、事業所広報への写真の掲載についても確認がとられています。また、接遇研修も行っているほか、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様と関わる時間を大切に、会話や仕草、行動等から思いを汲み取りご自身で表現したり、自己決定して頂ける様に働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活パターンを把握し、自由に過ごして頂けるよう支援している。希望に沿い過ごして頂く様にしているが、希望に沿う事が難しい場合は話し合い納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類が取り出せる様整理整頓させて頂いている。またその人らしい身だしなみでおしゃれを楽しんで頂いている。ご自分で身だしなみを整える事が出来ない方は職員の方で季節に合った衣服を着られるようお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立や、ホームの畑で職員と一緒に野菜の収穫を行い獲った物を食材として利用している。また、盛り付けや配膳などその方に応じたお手伝いをして頂いている。毎日3食の献立をご利用者様に書いてもらいリビングに掲示している。	食事の準備、後片付けもできる範囲でご利用者と一緒に行われています。事業所の畑できゅうりやかぼちゃ等の野菜の収穫を一緒に楽しんだり、回転寿司への外食やちまき作りなどの機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食係が中心になり1日30品目が摂れるよう栄養バランスを考えた献立を提供している。食事量、水分量をチェック表に記入し職員が確認、水分が不足している利用者様には摂って頂けるようお勧めしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け・援助を行っている。お一人で難しい方には職員が介助を行っている。義歯は週2回消毒を行い、歯ブラシ等は週1回消毒をし口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めている。個別に応じて失禁軽減のため定時のトイレ誘導やトイレ時に見守りを行っている。	排泄チェックにより、ご利用者の排泄パターンや仕草を職員間で共有し、ご利用者に合わせたトイレ誘導が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や寒天を多く摂って頂ける様なメニューを心がけている。チェック表に排便の有無を記録し職員間で情報として共有している。ラジオ体操に参加して頂いたり体を動かす場面を設けるが3日排便が見られない場合は、かかりつけ医と相談の上、下剤を服用されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の体調やご本人の希望に合わせて入浴して頂いている。毎日入りたいと希望される利用者様にはなるべく要望に添えるよう配慮している。他の利用者様にも1週間に2～3回は入浴して頂いている。	基本的には週に2～3回の入浴を基本としており、入浴時は職員との会話を多く持つことを意識し、一番風呂がいいという方や同性介助がいいというようなご利用者の要望に合わせて支援を行い、入浴を楽しんでいただいています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、お休みにになりたい時にゆっくり気持ちよく休息して頂けるように努めている。居室の温度調節や乾燥を防ぐ為に濡れタオルを掛ける等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、内容を確認し変更や追加があれば都度職員間で把握してから服薬の支援をしている。服薬後の変化を見逃さず、医師や調剤薬局と連携をとり対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を把握し能力を発揮して頂けるような支援をしている。家事作業、壁飾り作り、習字等楽しみながら行って頂き、出来上がった時の満足感を感じて頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物に同行して頂いたり、天候を見て希望時に散歩にお誘いしている。又、ご家族様にも外出、外泊のご協力を頂き出掛けていただけるような支援をしている。	ご利用者と一緒に日々の買い物に出かけたり、季節に合わせてお花見や紅葉見学、ぶどう狩りや神社への初詣などにも出かけ、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に応じた対応をしているが、現在は全員分をホームで管理している。希望の物を買う場合は職員同行し、一緒に購入して頂いる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された場合は職員がお繋ぎし、お話しして頂いている。又、年賀状を出す際、ご自分で書ける方にはご家族宛てに名前や言葉を書いて頂いている。難しい方には職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどには、四季に応じた装飾で季節を感じて頂けるよう工夫している。また、不快な環境にならないよう室内の温度調節や音、灯りなどに配慮している。	リビングは季節を感じられる様にご利用者の作品を飾ったり、畳コーナーにはテーブルやソファが置かれ、新聞を読んだり、自由に過ごして頂くようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士がリビングや居室で過ごされ、ゆっくりお話しが出来る環境作りをしている、また、お一人で過ごされたい方には、職員は入らず見守りを行い思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や、馴染みの物を持って来て頂いている。入居後も希望があれば必要な物をご家族様に用意して頂き心地よい環境作りに努めている。	使い慣れたタンスやソファ、テーブルなどの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間はすべてバリアフリーになっていて、手すりもついておりお一人でも動き易くなっている。居室に表札をつけたり、トイレに張り紙をし、分かりやすく使いやすい工夫をしている。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない